

受賞者《佐川急便株式会社》

＜大規模物流事業者による総合的な環境保全への取り組み＞

国内普及台数の約 21%に該当する約 4,000 台の天然ガストラックなど低公害車を積極的に導入、また、モーダルシフトを推進し年間で約 11 万トンの CO₂ を削減、さらに都市部でトラックなどを使用せずに集配を行う「サービスセンター」を設置、これはトラック約 1,500 台の使用抑制の効果がある。これら環境への取り組みにあたり、自社で天然ガス充填スタンド設置、電車型特急コンテナ列車の開発など、様々な取り組みを能動・継続的に行っている。

1. 取り組みの背景

当社は、京都に本社を置く企業として、1997年にCOP3が京都で開催されたことを機に、地球温暖化防止対策としてCO₂排出削減へ向けた取り組みを積極的に実施して参りました。具体的には、環境に優しい車両の導入及び運転技術の教育、環境に優しい輸送手段の使用、そしてトラックや軽自動車を使用しない配送の実施等です。その結果、これらの取り組みを実施しなかった場合と比較して約137千tのCO₂排出削減を実現しています。(2013年度実績)

2011年には、天然ガストラック保有台数が4,217台となり、国際天然ガス自動車協会からトラック部門で世界一であると認定されました。



図-2 天然ガストラック

2. 取り組みの内容

当社は、一般的なディーゼル車と比較して約2割のCO₂排出量を削減できると言われている天然ガストラックを中心に、低公害車を積極的に導入して参りました。

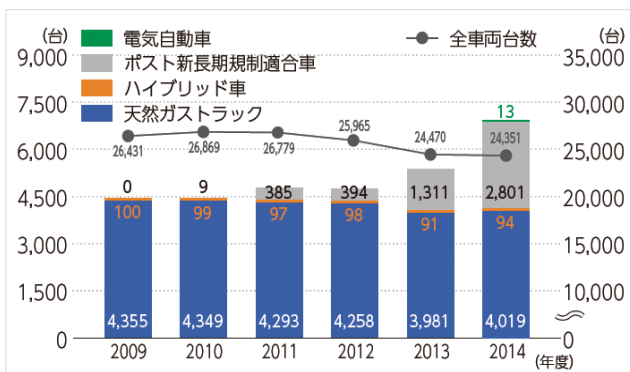


図-1 低公害車導入の推移 (佐川急便)

さらに、自家用天然ガス充填スタンドを全国に22カ所設置することで、独自にインフラを整備しています。



図-3 自家用天然ガス充填スタンド

その他、大型車の低公害化として、業界に先駆けて大型天然ガストラックを 5 台導入するとともに、電気自動車を 13 台導入しています。

また、車両の取組みだけではなく、モーダルシフトを推進しています。日本貨物鉄道株式会社と共同開発した 16 両編成の電車型特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」は、東京―大阪間の全輸送量の約 10% を担っています。これは、10 トントラック 56 台分に相当します。



図-4 スーパーレールカーゴ

交通量が多く駐車スペースが少ない都市部では、トラックなどを使用せず台車や 3 輪自転車を用いた人力で集配を行う「サービスセンター」を設置しています。



図-5 サービスセンター

今後につきましても、新たな低公害車両の導入の検討、モーダルシフトや車両を使用しない配送の更なる拡大、館内物流システムの推進、拠点施設の LED 化など、総合的に CO₂ 排出量削減に取り組んで参ります。



佐川急便株式会社
代表取締役社長 荒木 秀夫

〒601-8104
京都市南区上鳥羽角田町 68 番地
電話 075-691-6500
URL : <http://www.sagawa-exp.co.jp/>

環境活動の理念

当社は、事業活動を続ける限り避けることのできない環境への負荷をできる限り減らすために、地球温暖化の防止をはじめ、さまざまな環境への取り組みを継続しています。今後もステークホルダーの方々と連携し、社会全体で地球環境の保全に取り組むことを目指します。